長洲町立長洲小学校　校長便り　No.97

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年6月8日(木)

【独り言】

梅雨らしくなった。よく降るものだ。

私はよく献血に行くのだが、移動に熊本電鉄の電車を使うことがある。その日は雨で八景水谷駅発の上りは少々遅れていた。駅そのものが小さく、雨をしのぐ屋根は限られており、私は傘をさして屋根の外側で電車を待っていた。駅には2人の子供を連れたお母さんと、数名の男子高校生がいて、高校生は楽しそうに談笑している。

ほどなく電車が到着。出入り口に近いお客様から乗車していくと、子供連れのお母さんが遅れてしまっていた。雨模様…。

2人の子供連れでは少し濡れてしまうかも…!? と心配していると…。高校生達2人が子供に寄り添うように、傘をさしかけてくれたのだ。お母さんは電車の中で高校生達にお礼を伝え、更に2人の子供達に促し、子供達からもお礼を伝えていた。お姉ちゃんから「ありがとうございました。」、抱っこされていた子供は恥ずかしくて顔を背けていましたが、高校生達は笑顔だった。

その後、私は吊り革に捕まり、先ほどの場面を思い出してみた。

「捨てたもんじゃねぇな…。」

10分あまり過ぎて藤崎宮駅のホームに降りると、先ほどの高校生達が降りる時、子供を抱っこしたまま、高校生に頭をさげているお母さんの姿があった。高校生達は照れくさそうに立ち去った。

私は高校生達のお陰で、気持ち良く上通を歩いた。若者の親切で、イライラした周囲の人まで気持ちよくなった出来事だった。こんな若者が増えてくれることを願って止まない。

「教職の現場で大切にしていること」（再掲）

次の言葉は、お世話になった校長先生の言葉で、今でも仕事人として大切にしている教えです。その理由は、相手があるという教職の現場において、子供達や保護者、地域の方々と連携し、教育効果を上げていくために、最低限守るべき事を集約した言葉だからです。教師だけでなく、大人が守るべきルールであり、子供達に行動で示していく必要があります。

【時を守る】

時間を守るということは、社会人として最低限守るべきことだと感じています。我々大人は子供達に「時間を守りましょう」と指導していますが、我々が襟を正さなければ、指導したことの説得力に差が出てしまいますね。

【場を整える】

学習環境をきちんと整えることで、子供達の学習に対するモチベーションも上がります。目の前にきちんと整えられた教材教具があれば、子供達は「頑張ろう!」という気持ちになるはずです。ご家庭では如何でしょうか。無駄を省き、整理整頓することは、仕事や勉強の効率を上げるための一番の近道だと思います。かく言う私は整理整頓が大の苦手ですが…。

【礼を尽くす】

社会人として働く殆どの場合、目の前には人がいます。私達教師の仕事には、児童生徒、保護者の皆様の願いをくみ取り、最高のパフォーマンスを提供しなければなりません。それが相手に対する礼儀だと思いますし、責任でもあります。学校での場面だけでなく、人とのつながりの中で、相手を尊重し、礼節を重んじた接し方ができれば、多くの問題は回避できます。こういう意味から「礼を尽くす」ことは大切なのです。

【相手の立場を考える】

これは、最近になって追加したことです。それぞれのポジションで仕事をしていると、どうしても独りよがりになることが多く、失敗することも多いからですね。

【真摯に、謙虚に、感謝して】

これについても私が追加したものです。この3つを忘れると、人間としての成長はあり得ません。お陰様で自分が成長させて頂いていることを忘れないようにしたいものです。

この5点、私は自戒の意味で、大人として、垂範できているかどうか、自己検証していますが、中々うまくいきません。

シリーズ「自分を語る」#97

他の研修員についても紹介します。教え子としての彼らの生活マネジメントは、時に楽しくもあり、厳しくもあり、驚くこともあり、まぁ、刺激的な毎日でした。

中国からの研修員は、お医者さんの劉（りゅう）さんです。劉さんは事故や外傷による言語障害を、理学療法によって治療するというドクターです。でも、彼女は、日本語が殆ど話せない状況で来日しました。何でそんな人を研修員として受け入れたの?となるのですが、姉妹提携とか交流だとか多くの「しがらみ」があるので私の力ではどうすることもできません。私は劉さんが気持ちよく研修ができる様にマネジメントするだけです。

彼女は熊本市大江から機能病院まで、自転車で通勤していました。最初は通勤も研修もすごく大変だったようですが。中国語通訳との連携で徐々に生活に慣れていきました。研修先視察では、お医者さんが診察したり手術したりするところは殆ど見ることはありませんでした。劉さんが診察する場所は、日本で言う言語リハビリテーション施設です。静かな個室でした。そこで、言語表出がスムーズになるようなリハビリを行うのですが、劉さんは中国語、患者は日本語なので、そもそもの発音が違います。唇や舌の使い方が違うため、実際に患者さんのリハビリには関与することは少なかったそうです。彼女は、理論研修中心の研修を行って、熊本での研修を終えました。

タイの研修員、ロンさんは農業研修でした。玉名の蓮華院傘下のNPO法人で農業研修をしました。米の作り方、雨対策、気温対策、多くの農業技術を学びました。ロンさんは20代前半で、知識やスキルを学ぶスピードも速かったですね。日本語のコミュニケーションが主となり、彼自身も楽しく研修していたようです。そんな中、日本での思い出作りのためということで、玉名市で開催された「草枕の里マラソン大会」に出場しました。彼はタイでも農業に勤しみ、自然と体も鍛えられていたようです。何と、39歳以下の部で優勝してしまいました。日本での良い思い出になったと後の研修報告で振り返っていました。

次は、カンボジアとペルーの研修先視察です。芦北町と九州産業交通です。彼らも楽しく研修していました。担当者冥利に尽きます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）